

京都  
ミュージアム案内

108

館 長 市橋 正孝  
住 所 〒617-0002  
向日市寺戸町寺山12-1  
電 話 075・934・6395  
ファクス 075・934・6396  
ホームページ <http://www.suncub.or.jp/>  
開館時間 午前10時～午後4時  
休 館 日 月曜(祝日の場合は翌日)  
入 場 料 1階は無料、2階ミュージアムは500円

## 寿恵更紗ミュージアム

「寿恵更紗ミュージアム」は向日市の竹林に囲まれた閑静な地、燦々クラブ会館2階に08年にオープンした。第1～第3まで、三つの展示室がある。運営団体は当会館を所有するNPO法人「日本燦々クラブ」。クラブの前身団体を創設していた故・青木盛栄氏の妻で更紗芸術家の故・寿恵女史にちなみ「寿恵更紗ミュージアム」と名づけられた。女史は1926年、大阪生まれ。50年ごろよりろうけつ染めの研究や創作活動を開始し、後に銀座・和光や名古屋市立博物館にて個展を開催した。イタリア、ドイツ、フランス、カナダなど各国政府より招聘され、展覧会を開くなど、国内外問わず高い評価を受けている。ミュージアムでは年2回(春・秋)さまざまな企画で「寿恵更紗展」を開催している。

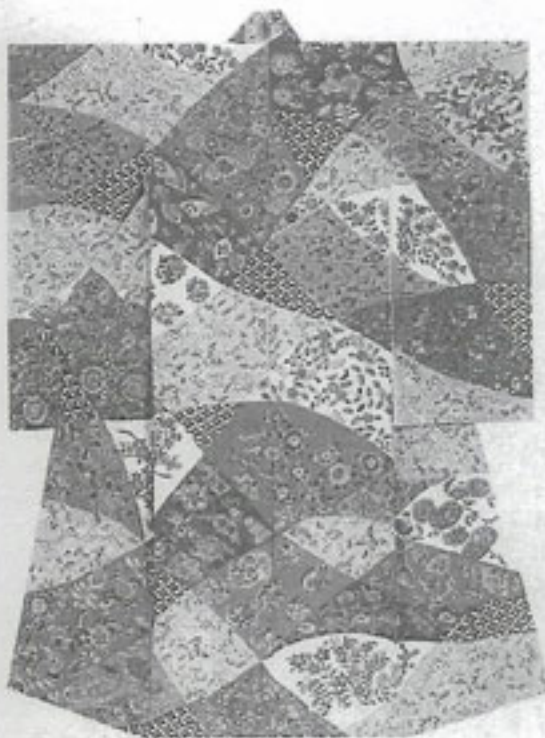
## 草木染め手描きの世界

## 故・青木寿恵女史 国内外で高い評価

故・寿恵女史が開拓してきた草木染め手描き更紗の世界は、今から400年前、東南アジアから我が国に伝来して以来、南蛮渡来の更紗染めとしてもはやされた異国情緒あふれる文様染めの植物染料による復興である。手法技術が難しく、手間がかかり過ぎるため、我が国では衰退の一途をたどっていた。女史は研究・努力を重ね、女史独自の「寿恵更紗」となる。着物「情炎」は炎のように燃える赤(蘇芳)と、あでやかなエンジ(コチニール)を主調に、若々溢れるいのちを染め込んだ振り袖である。

## 着物「情炎」(1970年代)

寿恵更紗ミュージアム蔵



## 額装「春陽」 長岡天満宮所蔵



4月17日から「天神様と和更紗展」と題し、寿恵更紗ミュージアムで春の特別展を開催する。本展で初展示となる額装

「春陽」(長岡天満宮所蔵)は02年春、長岡天満宮で執り行われた菅原道真公御神忌1000年大萬燈祭を記念して寄贈され、永代にわたり長岡天満宮神殿に掲げられているもの。作品に打ち込んだ作者の強い思いは、道真公の魂に語りかけながらの渾身の創作であったという。学問を極められた菅原道真公の魂と世の人々の幸せを心から感じ生きた故・寿恵女史のおもいが本作の中に見事に調和し、見る人の心を平和な世界へと引き込む。



## ギャラリー

向日市の文化向上の一助となればとのおもいから、ミュージアムでは年2回開催される寿恵更紗展の期間(春・秋)を除き、一般の方へギャラリーの貸し出しを三つまで行います。

る。また、会館1階においても、各種サークル活動や講演会など、さまざまなイベントに利用可能な多目的ホールも備えており、文化交流の拠点を